

聴覚障害学

[講義] 第2学年 後期 必修 2単位

《担当者名》○葛西聡子 kasai@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

小児聴覚障害に対する言語聴覚療法を実践するために必要な理論と臨床応用を学ぶ。本講では難聴の早期発見・早期療育の重要性、原因疾患、診断評価、聴覚補償機器、(リ)ハビリテーションの立案に加え家族支援、ろう文化等について体系的に学ぶ。

【学修目標】

「一般目標」

1. 難聴の早期発見・早期療育の重要性を理解する。
2. 小児聴覚障害の診断・治療に必要な評価法について理解する。
3. 補聴器・人工内耳などの聴覚補償機器について理解し説明できる。
4. 小児聴覚障害の(リ)ハビリテーションの立案(補聴と言語指導)について概説できる。
5. 家族支援及びカウンセリングの観点から小児聴覚障害児とその家族を包括的に支援できる。
6. ろう文化・手話言語を含む多様なコミュニケーション様式を理解し、倫理的観点から補聴・人工内耳の選択を検討できる。

「行動目標」

1. 遺伝子変異、感染症による難聴など小児聴覚障害の原因疾患について理解する。
2. 症例に対して診断に必要な聴覚検査法を挙げ説明できる。
3. 乳幼児聴覚検査法と他覚的聴覚検査法を分類し、その違いを説明できる。
4. 補聴器と人工内耳の違いを理解し説明できる。
4. 小児聴覚障害に対する(リ)ハビリテーションについて理解し説明できる。
5. 視覚聴覚二重障害およびろう文化について理解し、コミュニケーションモードの選択やその支援について概説できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1-2	オリエンテーション 小児聴覚障害の原因疾患	授業の目標と全体の流れを把握する。 難聴の早期発見・早期療育の重要性について学ぶ。 小児聴覚障害に関わる耳鼻科的疾患について学ぶ。 遺伝子変異、感染症による難聴と随伴症状を学ぶ。	葛西聡子
3-4	乳幼児聴覚検査法1、2 (他覚的聴力検査)	新生児聴覚スクリーニングの概要について学ぶ。 精密医療機関における言語聴覚士の役割を学ぶ。 聴性脳幹反応(ABR)の実際を学ぶ。 聴性定常反応(ASSR)の実際を学ぶ。	葛西聡子
5-6	乳幼児聴覚検査法3、4	聴性行動反応検査(BOA)、条件詮索反応検査(COR)の原理、方法を学ぶ。 ピーショウテスト、遊戯聴力検査の原理、方法を学ぶ。また、乳幼児聴覚検査を概観し、小児聴覚検査の全体像を把握する。	葛西聡子
7-8	聴覚補償1、2 (補聴器、人工内耳)	小児聴覚障害特有の補聴器の選択、調整、装用指導、評価法について学ぶ。 聴覚補償のための人工臓器である、人工内耳について学ぶ。 家族への情報提供・意思決定プロセスについて学ぶ。	葛西聡子
9-10	(リ)ハビリテーション1、2 (人工内耳の実際1、2)	人工内耳のマッピングと評価法について学ぶ。 人工内耳のハビリテーションについて学ぶ。 人工内耳術前後の言語聴覚士の役割について学ぶ。	葛西聡子
11-12	(リ)ハビリテーション3、4 (聴覚と発達1、2)	小児聴覚障害のハビリテーションの概要を学び、指導機関と指導方法について理解する。 ろう文化と人工内耳について倫理的論点を学ぶ。	葛西聡子
13-14	(リ)ハビリテーション5、6 (聴覚と発達3、4)	小児聴覚障害における言語発達の評価と訓練の立案について学ぶ。 発達段階に沿った聴覚障害児の支援、インクルーシブ教育、特別支援学校等との連携について学ぶ。	葛西聡子
15	視覚聴覚二重障害	視覚聴覚二重障害の概要を学ぶ。盲ろう者のコミュニ	葛西聡子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		ケースン手段について学ぶ。	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%

【教科書】

日本聴覚医学会 編 「聴覚検査の実際 改訂4版」 南山堂 2017年（デジタル教科書）

最新言語聴覚学講座 聴覚障害学 編著：中川尚志 廣田栄子（医歯薬出版）（デジタル教科書）

【参考書】

立石恒雄 他 編 「言語聴覚士のための子どもの聴覚障害訓練ガイド」 医学書院 2004年

宇佐美 真一 著・編 「きこえと遺伝子(改訂第2版): 難聴の遺伝子診断とその社会的貢献」 金原出版 2015年

小寺一興 著 「補聴器フィッティングの考え方」 診断と治療社 2010年

深浦純一・内山千鶴子編著 「言語聴覚士のための臨床実習テキスト」小児編 2018年

藤田郁代 他 編 「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版」 医学書院 2021年

【学修の準備】

・聴覚検査法、聴覚補償機器等の内容は「基礎聴覚評価学」「聴覚障害学」「聴覚障害学演習」にリンクする。またこの学習は「聴覚障害学演習」の基礎となる。指定した教科書および参考書にあげた専門書を読み、評価法、補聴、聴覚障害の病態、診断・治療などについて総合的に理解するよう心掛けること。

・講義終了後は配布した資料や指定した教科書、参考書を精読し重要部分を復習して理解し、その日の習熟度をはかる小テストに備えること。

・講義以外に最低、160分（予習80分、復習80分）の学習時間を確保するのが望ましい。専門用語等を理解した上で次の講義に備えること。

・分からない部分は、オフィスアワーを利用し積極的に担当教員に確認すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2 . 言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

葛西聡子（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

豊富な臨床経験をもとに、理論はもちろん臨床に基づいた実践的な講義を展開する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している